

# 會 務

第 22 卷 第 2 號 昭和 11 年 2 月

## 通 常 總 會

昭和 11 年 2 月 14 日午後 4 時半より東京市麹町區丸ノ内 3 丁目 4 番地帝國鐵道協會に於て通常總會を開催せり。出席者 89 名。

會長青山士君議長席に着き開會を宣し下記の議事に就き出席會員の承認を得たり。

1. 昭和 10 年度事業報告 (本號會告欄参照)
2. 昭和 10 年度決算報告 (本號會告欄参照)
3. 役員選舉の結果報告

昭和 11 年度役員選舉投票の結果 (投票人員 964 名)

會長	當選	866 票	井上 秀二君
	次點	15 票	大河戸宗治君 以下略
副會長	當選	848 票	辰馬 謙藏君
	次點	11 票	物部長 穂君 以下略
常議員	當選	891 票	平山復二郎君
	同	865 票	萩原 俊一君
	同	855 票	河口 協介君
	同	833 票	蒲 孚君
	同	826 票	菊池 英彦君
	同	799 票	鶴田 勝三君
	同	781 票	後藤宇太郎君
次點	58 票	宮本武之輔君	26 票 井上 隆根君
	24 票	金子源一郎君	19 票 高橋嘉一郎君
	13 票	岩崎 富久君	12 票 阿曾沼 均君
	12 票	山崎 匡輔君	以下略

#### 4. 土木學會定款及規則改正に關する件

土木學會定款及規則改正案を上程し、一部字句修正 (會報欄参照) 後出席會員の承認を得たり (改正定款及規則は主務官廳の認可後本誌上に發表す)。

以上を以て議事を了し、次に昭和 10 年度優秀論文の著者に對し土木賞牌の贈呈を行ふ。

昭和 10 年度優秀論文及び著者

不靜定構造の解法に應用したる撓角分配法

會員 工学博士 鷹部屋福平君

鑄鉄管に於ける流量に就て

會員 工学博士 池田篤三郎君

次で青山會長の講演 (別項) あり午後 6 時閉會せり。

總會終了後有志晩餐會を開催し午後 8 時散會せり (會報欄参照)。

## 役 員 會

### 第 1 回役員會 (昭 11.1.10)

出席者: 青山會長, 草間, 平井兩副會長, 池邊, 小野, 加藤, 佐藤, 野口, 藤井, 古川, 宮長各常議員, 名井, 眞田兩前會長

1. 昭和 10 年度に於て贈呈すべき土木賞牌は 2 箇と決定せり。
2. 株式會社間組社長小谷清君より東亞部事業援助として 1000 円の寄附あり、之を受領し事業資金に組入ることとせり。

3. 定款規則改正の件は慎重審議の上草案を決定し通常總會に上提することとせり。

4. 通常總會を昭和 11 年 2 月 14 日 (金曜日) 午後 4 時 30 分より帝國鐵道協會に於て開催することとし總會の議案及順序を原案の通り決定せり。

#### 5. 入退會の件 (12 月中申込)

飯田正熊君外 47 名を會員に、青木堅司君外 94 名を准員に、安達武雄君外 34 名を學生員に入會を承認し、池田悟君外 5 名を准員より會員に転格を承認せり。

#### 臨時役員會 (昭 11.1.24)

出席者: 青山會長, 草間, 平井兩副會長, 小野, 金森, 佐藤, 鈴木, 藤井, 古川各常議員, 名井前會長

1. 振興委員會第 3 部會に於て決議したる振興案を報告せり、而して本案に就ては慎重審議の必要あるを以て次回の役員會にて更に協議することとせり。

2. ベルギー土木省, 獨逸 Gemeindetag 協會, ノールエー道路局, シヤム國工學會と會誌を交換することとせり。

3. 服部報公會より明治以前日本土木史編纂出版補助金 1000 円を昭和 11 年度に於て交附決定の通知ありたり。

4. 王子製紙株式會社より本會事業援助として 1000 円寄附ありたるを以て之を受領し事業資金に組入ることとせり。

5. 昭和 10 年度事業報告並に決算報告を原案の通り決議し、併て關西支部昭和 10 年度決算報告を承認せり。

6. 昭和 10 年度土木賞牌贈呈論文の著者を編輯委員會記事の通り決議せり。

7. 中山秀三郎君より申出の賞牌基金及記念基金寄附受領の件は寄附者の意志を尊重して次回役員會に於て協議することとせり。

8. 役員選挙投票の開票日を2月3日とし、次の役員に開票を一任することとせり。

副會長平井喜久松君、常議員佐藤利泰君、藤井眞透君、古川淳三君、宮長平作君

#### 9. 入會の件

昭和10年12月中に申込の有賀峰夫君外32名を准員として入會を承認せり。

#### 臨時役員會(昭11.2.3)

出席者：平井副會長、佐藤、藤井、古川、宮長各常議員  
昭和11年1月24日の役員會に於て選任せられたる上記役員立會の下に昭和11年度役員選挙投票を開票せり、其結果は總會記事の通り。

#### 臨時役員會(昭11.2.14)

出席者：青山會長、草間、平井兩副會長、池邊、小野、加藤、金森、河原、佐藤、鈴木、野口、藤井、古川、堀越各常議員、那波、名井、眞田、久保田各前會長、平山振興委員會第2部委員長

1. 服部報公會より明治以前日本土木史編纂出版援助金1000円を2月7日受領せる旨報告す。

2. 世界動力會議大堰堤國際委員會日本國內委員會議事を報告す。

3. 昭和11年度役員選挙の結果を報告す。

4. 第2部振興委員會提案に關し平山振興委員會第2部委員長より説明あり、役員詮衡に關する件中詮衡委員會は從來通り土木學會有志とするも差支なき旨の修正ありたる後、更に次回役員會に一括報告せられたき旨希望ありたり。

5. 銲接協會に日本工學會入會の爲本會に於て之が紹介をするの件を決議す。

### 編輯委員會

#### 第1回編輯委員會(昭11.1.13)

出席者：藤井編輯長、岡田、末森、瀧淵、永田、成瀬、野口、福田各委員、堀越前編輯委員

1. 昭和11年度豫算中會誌印刷及原稿費の報告をなす。

2. 第21卷第12號所載論說報告に對する討議依頼先を決定せり。

3. 第21卷第12號所載論文其他に對する謝禮を決定せり。

4. 抄録擔當者に新たに下記諸君を追加依頼する事とす。

奥田敬朝君、住友 彰君、竹内 正君、藤森謙一君

5. 第21卷第12號及第22卷第1號に下記原稿追加せり。第21卷第12號。

彙報：水道協會第4回總會並に部會記事(會、工博、草間偉)第22卷第1號。

工事寫眞：漢江橋架換工事、全通せる小海線。

彙報：道路構造令並に同細則改正案要項(内務省土木局)。

抄録：薄いコンクリート梁の曲げ抵抗(高島)、Tacoma市の鑿井水源(玉置)。

6. 第22卷第2號登載の原稿を下の通り決定せり。

講演：會長講演(2月14日講演豫定のもの)。

論說報告：地下鉄線路に於ける線路の間隔及び隧道の大きさに關する調整々備に就て(第3編)(會、工、安倍邦衛)、道床箇分の研究(會、工博、井上隆根)、朝鮮慶尙南道赤布橋工事報告(准、角田孝志)

討議：汐留驛改築工事に就て(准、工、瀧山榮、同上(著、會、工、佐藤輝雄)、三角測量に於ける對數計算に就て(會、關重雄)同上(著、會、工、江藤禮)

彙報：常磐線日暮里南千住間線路改築工事概要(會、工、内山祥一)、由比與津間洞隧道變形に關する調査鐵道省工務局保線課)

抄録：鉄筋コンクリート牛棒による水制工(傍島)、カイロの都市計畫(奥田敬)、桑港市造幣局の耐震設計(小林)、常溫處理せる高強度鉄筋鋼(糸川)、綿布にて補強せる路面(比田)、管の摩擦と流量減少に關する研究(玉置)アイバーの貫物大試験(最上)、円筒の塑性理論並に焼嵌め及び力嵌めに關する計算法(最上)、試験片の振動が繰返し回転曲げ試験結果に及ぼす影響(最上)、築堤並に土堰堤の濕式施工法(米屋)、Coulee堰堤に於ける骨材輸送用吊橋(玉置)、Molare堰堤破壊の原因(山岡)。

特許抄録：13件及登録實用新案20件

7. 下記2君を昭和10年度優秀論文の著者として役員會に推薦する事に決定せり。

第21卷第1號所載「不穩定構造の解法に應用したる撓角分配法」の著者、會員、工学博士、鷹部屋福平君

第21卷第2號所載「鑄鉄管に於ける流量に就て」の著者、會員、工学博士、池田篤三郎君

#### 第2回編輯委員會(昭11.2.4)

出席者：青山會長、藤井編輯長、岡田、龜田、川口、瀧

淵各委員、柴原書記長

1. 第 22 卷第 1 號所載論說報告に對する討議依頼先を決定せり。

2. 第 22 卷第 1 號所載論說報告其の他に對する謝禮を決定せり。

3. 第 22 卷第 2 號に下記寫眞及論文を追加せり。

工事寫眞：木曾川筋笠置發電所工事、全通せる土讃線

討 議：方塊橋構造物の安定度に就て(會,工,柳澤米吉) 同上(著,會,工,工藤久夫), 鑄鉄管に於ける流量に就て(會,島崎孝彦), 同上(著,會,工博,池田篤三郎)

彙 報：國鉄の雪害概況(鐵道省工務局保線課)

抄 録：鋼構造と銲接技術(傍島), 橋床に鋼板を銲接した例(傍島) 米國土木學會の役員選舉候補者の經歷(藤森)

4. 第 22 卷第 3 號登載論文を下の通り決定せり。

論說報告：調圧水槽の設計條件と漸縮断面を與へての改善方法に就て(會,榎本卓藏), 重力堰堤の応力計算に就て(會,工,石原藤次郎, 准,工,小西一郎)

討 議：長崎港修築工事報告(會,工,平尾俊雄), 同上(會,工,古河順治), 同上(著,會,工,三好貞七), 利水より見たる琵琶湖の調節及淀川低水工事(會,工博,眞田秀吉), 同上(著,會,工,山内喜之助)

彙 報：阿賀野川筋湯野上水力發電所工事概要(准,澤田俊郎), 木曾川筋笠置水力發電所工事概要(會,石川榮次郎), 雄谷川水力發電所工事概要(准,古田一三六), 小玉川水力發電所工事概要(中井龜太郎), 撓角法に依るラーメン解法の用語及び標準記號(工博,坂靜雄), 學術振興會記事(會,工博,藤井眞透)

抄 録：既製コンクリート材に依る小擁壁(糸川), Pisa の斜塔の動き(糸川), 石灰岩峽谷に築造せる Sautet 堰堤(玉澄), セメント管の耐蝕及透入性試験(西村) 談話球による下水管掃除(西村),  $\pi$ 型又は  $\tau$ 型断面形柱の埋屈に對する安全性(小野), 波形鉄板を使用せる床組の工費(往友), 洪水と浸蝕の防止問題(本間), 構造解析の制限及び応用(章間)

特許紹介：13 件及登録實用新案 15 件

### 土木學會振興委員會

第 3 部會第 10 回委員會(昭 11・1・20)

出席者：野坂委員長、伊藤、内山、小澤、太田尾、岡崎、

奥田、佐藤、須之内、瀬戸、千秋、瀧山、立花、富樫、南保、服部、原田、本間、松井各委員、柴原書記長

下記の通り全會一致を以て決議し役員會に提案することゝす。

#### 1. 役員詮衡方法改革案

##### 趣 意 書

從來本學會の會長副會長並に常議員の選舉は一部の會員有志が候補者を推薦し候補者は選舉の結果例外なく當選せる實狀であつたが、之等有志によつて推薦せらるゝ候補者の顔觸れは稍々もすると、學會の事業遂行に適切なる人物を限目とするよりは社會的地位ある明治時代の人を年代順に形式的に推薦せる嫌ひあり、従つて學會の空氣は兎角官僚的に沈滞し勝となり、延いては學會の事業も振はざる傾があつた。

斯くては先に振興委員會第 2 部會及第 3 部會に於て提案せる改革されたる學會の組織機關を有效に運用する事能はず、先づ學會の役員にその人を得べきことを主張し、客年 10 月 16 日の會合にも申合せたる如く役員候補の推薦方法を左記の如く改むる様提案する。

尙目下審議中の定款改正の上増員さるべき 6 名の常議員の補選は必ず本提案に基き小壯技術者より有能なる人物を推薦すべきことを希望するものである。

##### 改 革 案

1. 改選さるべき會長副會長常議員の候補者は土木學會員有志の會合席上でその定員數を選んで全國會員に推薦する。

2. 有志には現常議員會に於て振興委員會第 1 第 2 第 3 部會の如く、明治大正昭和を通じ各年代に屬する會員數に略々比例するやう按配し、從來の數の 2~3 倍の人を有志として委嘱すること、これらの有志は年代別に 2 組又は 3 組の會合に別れそれぞれ各年代に屬する常議員を推薦し、更に有志會合の席上で常議員定員數を決定する。

3. 有志會合の席上に於ける候補者の選定方針は左記に因ること。

イ 常議員は必ずしも年代順、社會上の地位によらず學會の事業遂行上適切なる人物を本位とす。

ロ 年代はなるべく現土木界の中堅又は小壯の人物を選ぶ目的で大正中期より昭和時代に社會に出た人を選ぶこと。

ハ 土木技術界各々各専門を考慮し今回の候補者にその例を見る如く一部の技術界に偏せざる様各部門から一様に選ぶこと。

## 2. 一般事業に関する提案

第2部會の決議に基づき土木學會に總務、普及、法制、調査、組織、會計、編輯、東亞の8部を置きたる場合各部に於て特に實行すべき事業として左記の各項を擧ぐ。尙既に第2部會に於て提案されたるものは重複を避くる爲之を省略した。

### 1. 總務部

A. 講演會：技術學術に関する通俗並に専門の講演會を全国各地（例へば札幌、仙臺、東京、名古屋、大阪、廣島、金澤、福岡、京城、大連、臺北等に講師を派遣して年1回の割に開催すること。

B. 講習會：成るべく一般土木技術家に共通なる問題（防災工学、銲接、土木法規の解説又は設計豫算見積に関する講習會等）を特に實地技術家を目標とし、又土木學會内各種委員會及び調査部で決定せる事項の普及を図る方針で講習會を開催すること。

C. 座談、討論會：會員一般の關心を有する議題につき出席者の自由討論を行はしむ（10月29日第3部會議事参照）。

D. 見學旅行會：成る可く簡易に經濟的に行ふこと。

### 2. 普及部及組織部

A. ラヂオ放送：月1回位の割で土木學會より演題講師を選定して土木時事問題を放送する様放送協會に密着すること。

B. 土木記事の推薦：一般雑誌に土木技術の記事を學會より選定推薦すること。

C. 會員増加策：第3部會の決議に基づき會誌を第1部及び第2部に別けて准員には第2部のみを配布して新會員を獲得すること。准員にして希望者には第2部を正會員並の會費にて預つこと。

D. 他學會との連絡を図り全技術雑誌の發行を提案すること。

### 3. 法制部

A. 東京都制案：東京都制案は來議會に提案すべく目下立案中と聞く、土木學會内にも調査委員會を設置之が内容を研究建議すること。

B. 港灣法の立案。

C. 請負制度に関する立案：請負制度特に入札制度工事契約書に関する調査立案。

D. 土木技術者資格制度の立案：速に土木士法の如き國家試験制を確立し、實力者登用の途を講ずること。

### 4. 調査部

A. 地方別標準單價、歩掛りの調査。

B. 銲接に関する規格の調査。

C. 災害調査には従來の中央制に依らず、現地の技術家に委嘱して責任ある報告を提出せしむること。

D. 學術相談部を學會内に設けること。

E. 土木技術者の人事、待遇問題に學會が關心を持ち技術者の待遇改善を具體的に指導すること。

F. 土木事業振興に關す調査：各方面の權威者を集めて土木事業振興委員會を學會に設け左記事項を調査研究し具体案を提出せしむ。

イ. 土木行政機構の調査、ロ. 大土木事業計畫の調査

ハ. 土木關係實業界の振興に關する調査、ニ. 本邦土木技術の東洋進出に關する件、ホ. 世界土木會議の開催に關する件。

### 5. 會計部

特別會員の獲得又は學會制定の工事契約書に使用料を徴集する等の方法により事業資金を調達すること。

### 6. 編輯部

A. 工事年鑑、工事寫眞帖を年1回刊行すること。

B. 學會制定の權威あるポケットブックを作成すること。

### 7. 東亞部

内務、鉄道、大学其他大會社の現役にある人を東洋各地に派遣して土木技術の調査、視察、宣傳せしめる様土木學會が委嘱斡旋すること。

## 3. 振興委員會常置の提案

今年度設置せられたる振興委員會各部會の如き會を新に學會内に常置し、左記の如く學會の事業、動向、指導方針等を検討し、常に全會員をして學會に興味と關心を懷かしむることを提案する。

1. 明治、大正、昭和年代に社會に出でたる會員より適當なる人を選定して委員に委嘱す。

2. 會合は各年代別に開催して各時代の會員の意志、主張を自由に發表せしめ、提出されたる案は常議員會の協議を経て實行可能なる事業は速に之を遂行する。

3. 委員は年6回乃至12回位の割合に座談會の形式に於て會合し、特に會務その他の實務を行はず、學會の事業、動向、指導方針を検討して沈滞し易き學會の空氣を鼓舞すること。

### 第2部會第8回委員會（昭11.2.5）

出席者：平山委員長、阿會沼、河西、三浦、榎木、宮本、山下、金子、徳壽、内海、山口各委員、金森常議員、小野寺庶務主任。

次記の通り全會一致を以て決議し役員會に提案することとせり。

1. 役員詮衡に関する件

(イ) 役員選挙に先ち役員選衡委員會を設けること

(ロ) 詮衡委員會は各年代(大正, 昭和), 各學歷, 各専門の代表者を以て組織すること

(ハ) 委員数は30名内外とすること

(ニ) 常議員詮衡に當りては新機構による事業による事業遂行上適任者を選ぶこと

(ホ) 詮衡事情は参考意見として詳細新會長に報告すること

附記: 右は次回の選挙より實施すること

2. 振興委員會常置に関する件

第3部振興委員會提案の趣旨により總務部に振興委員會を設置すること

### 維新以前日本土木史編纂委員會

第35回委員會(昭11.1.23)

出席者: 眞田副委員長, 前川, 名井, 小川, 眞島, 牧, 安藝, 板井, 久野各委員, 高柳, 栗原, 渡邊, 小川各囑託

本月の編纂事務その他の報告をなし, 次の事項を協議せり。

1. 校正を急ぐこと, 2. 牧委員の原稿を急ぎ提出を乞ふこと。

### 關西地方風水害調査委員會

第3回主査委員會(昭11.1.22)

出席者: 中川委員長, 平井副委員長, 内山(第1部主査代理), 三浦, 岡部(第5部主査代理), 五十嵐(第2部主査代理) 各主査, 古川, 宮本兩幹事, 小野寺庶務主任

1. 各部主査に於て纏りたる報告書は即時本會に送附を乞ふこととし, 若し未完了の場合は2月15日までに報告する様依頼することとす。

2. 報告書印刷費の豫算を作成することとす。

3. 日本學術振興會其他へ編纂補助を申請することとす。

### 日本工學會記事

○昭和11年1月30日日本工業俱樂部に於て日本工學會評議員會を開催し一般會務の報告あり次で下記事項を決議せられたり。

1. 昭和10年度追加豫算の件, 2. 昭和11年度豫算編成の件, 3. 本會社員入會申込に關する件, 4. 明治工業史編纂に關する負債一部返済の件, 5. 用語統一調査委員會補助金増額の件。

○昭和11年2月6日日本工業俱樂部に於て第3回工學會大會12學會職員打合會を開催し, 下記事項を協議せられたり。

1. 講演に關する事項

(イ) 各部會講演前刷の様式, 紙質, 寸法及部数は講演委員會に於て近く決定の上通知すべきに付右に基き12學會に於て印刷すること。

(ロ) 12學會に於て接受せる論文は「テクニカルプログラム」の如何なる條項に屬するやを決定せられ而して當該學會の分擔以外のものを接受せる場合には日本工學會に転送すること。本件は念のため講演委員にも通知す。

2. 見學に關する事項

見學委員に於て見學班別分擔を決定すべきに付各學會は擔當班の一切の世話をすること。

3. 部會に關する事項

各部會に於て大學構内の案内を大學の助手諸君等に依頼するも可なり。

○攻究を要する事項並打合事項

1. 講演に關する事項

(イ) 會員に對し無料頒布すべき論文前刷の部門又部數

(ロ) 講演者に贈呈すべき印刷の部數

(ハ) 論文集は工學會に於て編纂する豫定但し各學會が自會員の論文を其會誌に登載するは隨意なり

(ニ) アブストラクトは英和兩文を提出するものは英文のみを又和文のみを提出するものは其の儘掲載すること

(ホ) 講演者の氏名及演題は2月13日迄に日本工學會に通知すること

(ヘ) 會員にして制限以上の前刷を希望する者に對する取扱を如何にすべきやは大會委員に於て協議決定すること

(ト) 論文原稿の英文校正者を各學會にて依頼せし時は日本工學會より薄謝を呈すも可なり

2. 其の他の事項

(イ) 會員參加申込期限 3月20日

(ロ) プログラムの發送期日 3月6日

(ハ) 12學會に於て決定せるプログラムの原稿所

要部数及封筒部数は 2 月 20 日迄に日本工学会に送付せらるべきこと

(ニ) 見学者には各見学個所の 通し番號を附し且つ 1 個所 1 枚とすること

(ホ) 見学は 同時間に重複せる場合の 申込を謝絶すること

(ヘ) 参加者名簿は 成るべく各見学先に送付すること

(ト) 各部會々場の案内圖を 會場委員に依頼し作成すること

土木学会關西支部記事

昭和 11 年 1 月 24 日午後 3 時より中央電気俱樂部に於て第 1 回役員會を開き幹事長島崎孝彦君外 11 名出席下記事項を協議せり。

1. 第 9 回大會に報告すべき事務、事業報告及會計報告案を決定せり

2. 高橋前幹事胸像贈呈の件

昭和 11 年 1 月 24 日午後 4 時より中央電気俱樂部に於て第 9 回關西支部大會を開く、出席者 60 名にして幹事長島崎孝彦君司會者となり昭和 10 年度會務の報告をなし次で支部長並に評議員半數改選の結果昭

和 11 年度支部役員及職員下記の如し。

支部長(新任)清水 照君

商議員(新任)奥中喜代一君 同(新任)坪井豊彦君

同 (ノ)松田健作君 同(ノ)有光 正君

同 (ノ)棟澤惟助案君 同(ノ)澤井八洲男君

同 (留任)橋本敬之君 同(留任)佐藤 鼎君

同 (ノ)中川幸太郎君 同(ノ)原田類助君

同 (ノ)田淵壽郎君

幹事長(ノ)島崎孝彦君

庶務幹事(新任)鮫島午吉君

會計幹事(留任)柴田辰之進君 以上

次で下記の講演ありたり

琵琶湖の利用に就て 會員 内務技師 田淵壽郎君

その他の記事

○昭和 11 年 1 月 14 日役員改選に就き規則第 15 條に依る投票用紙並に東京府及其隣接縣在住會員名簿を全會員に發送せり。

○昭和 11 年 1 月 2 日土木学会誌第 22 卷 1 號を發行成規の手續を了し 1 月 2 日全會員に配布せり。

○昭和 11 年 1 月 29 日通常總會開催を定款及規則改正の議案を添へ全會員に通知せり。

入 會 々 員

(昭和 10.12.30 日手続了)

氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先
飯田正熊君	新潟縣廳土木部	徳永繁吉君	滿鉄瀧陽保線區	上田収司君	東京市土木局下水課
石田清君	宮城縣廳土木部	富田吾鹿君	宮城縣廳土木部道路課	尾崎章重君	"
梅原徳治郎君	大阪市土木部	中間清君	大阪市土木部	大野鐵藏君	東京市水道局
小野徳壽君	新潟縣廳土木部河港課	綾野元次郎君	"	窪田義之君	東京市土木局下水課
加藤信雄君	東京市水道局	馬場陪美君	横濱市土木局	近藤輝雄君	東京市水道局金町淨水所
神谷儀明君	新潟縣廳土木部	藤澤喜作君	新潟縣廳土木部	佐々木幹吾君	東京市土木局下水課
角谷秀吉君	大阪市土木部	古川治助君	鐵道工業會社	須田 義君	東京市水道局擴張課
河野富三郎君	大阪市土木部通略課	堀 武君	宮城縣廳土木部	管沼鹿之助君	東京市水道局業務課芝浦工場
木村辨吉君	"	松居榮二君	埼玉縣廳土木課	鈴木進君	東京市土木局下水課
久保武比古君	東京市水道局擴張課	村松彌一君	東京市水道局擴張課	土屋哲君	"
黒河内與八君	内務省農上川上流改修事務所	八木三男君	埼玉縣廳土木課	中家喜一郎君	東京市水道局澁根淨水所
後藤武次郎君	大阪市土木部	安井與三八君	京都府廳土木部	藤原市二君	東京市水道局
田中豊四郎君	"	山本經雄君	大阪市土木部	松本卯三郎君	東京市土木局下水課
高橋藤衛君	北海道釧路土木事務所	伊藤眞一君	東京市土木局下水課	宮村鐵作君	"
竹内友次郎君	大阪市土木部	伊藤順三君	東京市水道局	山田良實君	東京市水道局

吉田稔男君 東京市水道局擴張課

村非久次君 東京市水道局高田出張所

小林眞三男君 東京市水道局業務課

准 員

青木堅司君 内務省千曲川改修事務所  
 新井嘉十君 東京市水道局擴張課  
 伊東利作君 京都府衛生工務所  
 一之瀬喜雄君 内務省長野國道改良事務所  
 稻井 豊君 矢作水力株式會社  
 今森臺三郎君 臺灣總督府交通部鐵道部  
 岩田鉄治君 京城府土木課  
 小野麻三君 東京市水道局擴張課  
 小野藩一君 朝鮮總督府草梁土木出張所  
 大坂好一君 東京市水道局擴張課  
 太田介次郎君 京都府土木工務所  
 加藤春海君 埼玉縣岩槻土木事務所  
 片岡市郎君 大阪市電氣局高速鐵道部  
 桂川 力君 滿洲國都建設局技術處  
 金子 茂君 大阪市土木部道路課  
 神森五郎君 東京市水道局擴張課  
 川上企世士君 内務省川内川改修事務所  
 川口清藏君 大阪鐵道局神戸線區  
 川島金治君 鐵道省信濃川電氣事務所  
 木野健男君 宮崎縣土木課  
 菊池泰知君 東京市水道局擴張課  
 岸田 茂君 奉天鐵路局工務處  
 岸本照次君 大阪市土木部河川橋梁課  
 熊谷國嗣君 昭和セメント會社  
 熊耳爲男君 臺灣總督府交通部鐵道部  
 桑原 清君 京都府土木工務所  
 小出弘之君  
 小林米吉君 大阪市土木部道路課  
 小柳 彌君 鹿兒島高等農林學校  
 古藤爲之助君 東京市第二道路改修事務所  
 佐藤長太郎君 東京市水道局擴張課  
 佐藤尙忠君 東京府第二道路改修事務所  
 齋藤重次君 東京市水道擴張課  
 齋藤申吾君 新潟縣土木部  
 清水正夫君 朝鮮總督府仁川土木出張所  
 志村一雄君 東京府土木部橋梁課  
 鹽路全亮君 京都府土木工務所  
 鳥田勝太郎君 大阪市土木部  
 諏訪小次郎君 横濱市土木局  
 吹田浩次郎君 大阪市土木部道路課  
 杉山寅之助君 鐵道省信濃川電氣事務所

炭竈雄三君 京都府土木部河港課  
 染矢政次君  
 田口直次君 臺灣總督府交通部鐵道部  
 高木 力君 京都府土木工務所  
 高久 晃君 白石基礎工業合資會社  
 立井歳雄君 臺灣總督府交通部鐵道部  
 谷 勉君 廣島鐵道局工務課  
 辻 春雄君 滿洲國都建設局  
 友永一六君 東京府土木部橋梁課  
 中江至彦君 下關市土木課  
 中川茂兵衛君 内務省莊内國道改良事務所  
 中津海俊雄君 臺灣總督府交通部鐵道部  
 中野 彪君 中野土木建築設計事務所  
 中村喜作君 福井縣土木課  
 中邨又男君 新潟縣土木部河港課  
 中山久萬君 道 路 課  
 永松 喬君 大阪市土木部河川橋梁課  
 仁科貞雄君 内務省円山川改修事務所  
 西川利行君 白石基礎工業合資會社  
 西田高之君 臺灣總督府交通部鐵道部  
 長谷川泰博君 鐵道省信濃川電氣事務所  
 畑 董君 京都府土木部道路課  
 花房常次君 新潟縣土木部道路課  
 原 脩三君 横濱市土木部都市計畫課  
 平田芳信君 白石基礎工業合資會社  
 平山一馬君 平安南道廳土木課  
 藤田繁雄君 東京市水道局擴張課  
 保田市兵衛君 大阪市土木部河川橋梁課  
 星野 又君 群馬縣中之條土木出張所  
 三宅正元君 哈爾濱特別市公署都市建設局  
 綠川峰松君 東京市水道局業務課  
 宮川 浩君 内務省小矢部川改修事務所  
 八木健次君 大阪市土木部道路課  
 八尾孝次君 内務省七尾港修築事務所  
 柳井静夫君 奉天鐵路總局工務所  
 山形一美君 滿洲國道奉天建設所  
 山口一郎君 群馬縣中之條土木出張所  
 山田助治君 東京市土木局下水課  
 吉岡秋雄君 白石基礎工業合資會社  
 吉田正一君 東京市水道局業務課  
 米田健三君 樺田川製鉄所

米村武憲君 鳥取縣鳥取土木出張所  
 林野準之助君 鐵道省信濃川電氣事務所  
 若崎三千三君 北海道廳別路土木事務所  
 渡邊克巳君 大阪市土木部河川橋梁課  
 岡本定男君 京都府土木部道路課  
 稻柴光信君 東京市水道部擴張課  
 岩垣宏作君 大同電力能戶發電所  
 梅津清七君 鐵道省工務局改良課  
 江原正雄君 東京鐵道局工務課  
 三上快造君 東京市土木局下水課  
 山本芳樹君 東京市土木局道路建設課  
 有賀峰夫君 大阪府土木部池田出張所  
 安藤隆敬君 工 務 課  
 井上敏道君  
 井上仁三君 宮田出張所  
 石井爲正君 工 務 課  
 岩村博文君  
 喜田順之助君  
 木下芳三君 岸和田出張所  
 菊地愛道君 工 務 課  
 樽松正夫君 高槻工務所  
 小林正三君 道 路 課  
 小山 馨君 堺工務所  
 齋藤 博君 工 務 課  
 高本哲人君 大阪府土木部高槻工務所  
 杉山正元君  
 竹原克巳君 工 務 課  
 塚本一男君 高槻工務所  
 寺西豐男君 堺工務所  
 中谷忠壽君  
 橋本英二君 河港課  
 橋本幸吉君 鳳出張所  
 原川房吉君 八尾出張所  
 平尾榮治君 高槻工務所  
 藤村喜好君 富田林出張所  
 牧村新治君 高槻工務所  
 増田藤五郎君 池田出張所  
 又木榮藏君 鳳出張所  
 三澤久司君 都市計畫課  
 森木義郎君 大濠工務所  
 吉田信武君 大阪府都市計畫大阪地方委員會

吉田秀一君 大阪府土木部道路課  
 澁川 清君 " 鳳出郡所

福田榮三郎君 東武新橋保線事務所  
 永島國村君 内務省土木局

住谷 信君 内務省土木局國道改良係

学 生 員

安達武雄君 名古屋高工  
 秋永規輔君 京都帝大  
 飯島邦雄君 日大高工  
 岩田 準君 "  
 宇田正一君 京都帝大  
 上田 稔君 "  
 小澤章三君 "  
 柿野二三郎君 "  
 掛井 連君 日大高工  
 金出地史朗君 關西高工  
 神田文雄君 日大工学部  
 鬼頭滿男君 "

久保田敬一君 京都帝大  
 佐々木茂君 "  
 調 强君 "  
 大日森男君 熊本高工  
 高井定雄君 神戸高工  
 高井壽吉君 京都帝大  
 武田哲美君 "  
 永田修三君 日大工学部  
 西本惣八君 神戸高工  
 乘富士郎君 熊本高工  
 深田琴齋君 京都帝大  
 二神和正君 "

堀尾博通君 名古屋高工  
 増田正次君 日大工学部  
 三島正一君 "  
 宮崎虎太郎君 "  
 山内 浩君 北大土木専門部  
 山田儉二郎君 京都帝大  
 吉村完吾君 "  
 和田徳之助君 仙臺高工  
 和田良雄君 京都帝大  
 若林高行君 "  
 渡邊信雄君 日大高工

転 格 会 員

会 員

池田 悟君 黒岩茂松君

田浦謙二君 澤竹慶三君

石坂 直君 齋藤 勲君

土 木 学 会 々 員 数

(昭 10. 1. 24 現在)

会 員	准 員	学 生 員	特 別 員	賛 助 員	合 計
2,703	2,439	602	2	20	5,766

図 書 及 び 雜 誌

(昭和 11 年 1 月 中)

交 換		道 路 の 改 良	
衛生工業協會誌	第 9 卷 第 13 號	衛生工業協會	第 18 卷 第 1 號
工 政	ISS 號 11 年 1 月	工業化学雜誌	第 39 編 第 1 册
建築と社会	第 19 輯 第 1 號	工業化学雜誌	第 455 號
滿洲建築雜誌	第 16 卷 第 1 號	早稲田建築學報	歐文別册 第 39 編
水道協會雜誌	第 32 號 11 年 1 月	電氣學會雜誌	第 1 號
都市問題	第 23 卷 第 1 號	機械學雜誌	第 13 號 10 年 12 月
資 源	第 6 卷 第 1 號	日本鑛業會誌	第 56 卷 第 1 册
港 灣	第 14 卷 第 1 號	會 報	第 570 號
鉄 と 鋼	第 1 年~第 20 年 總目	建築雜誌	第 39 卷 第 225 號
技術日本	第 160 號 10 年 12 月	日本建築士	第 53 卷 第 609 號
業務研究資料	第 23 卷, 第 39 號~第 41 號	滿洲技術協會誌	第 37 卷 第 1 號
			第 50 輯 第 608 號
			第 18 卷 第 1 號
			第 13 卷 第 82 號



寄 贈

ローマ字世界工 学	昭和 11 年 1 月 號 第 257 號 11 年1月	日本のローマ字 東京工学社
東京土木建築業 組合 報	第 9 卷 第 1 號	東京土木 建築 業 組 織 各 社
土木建築雜誌	第 15 號 第 1 號	シ ビ ル 社
日本ニツケル 時 鐘	第 4 卷 第 1 號 第 8 卷 第 1 號	日本ニツケル 時 鐘 協 會
ニツケル合金鑄鉄の最新用途		日本ニツケル 時 報 局
滿洲技術協會誌	第 13 卷 第 81 號	滿洲技術協會
基礎工	第 8 卷	コ ロ ナ 社
機械學會論文集	第 1 卷 第 5 號	機械學會
帝國學士院紀事	第 11 卷 第 5 號	帝國學士院
セメントコンク リート道路	第 36 號	日本ポルトランドセメント 同 業 會
セメント製造業負傷對策協議會報告		日本ポルトランドセメント業技術會
学 報	第 4 卷 第 12 號	東京工業大学
浪速工業時報	第 10 號 10年 12 月	浪速工業會
鐵道技術	第 10 卷 第 1-2 號	鐵道技術社
都市美	第 13 號 10年 12 月	都市美協會
工事畫報	第 12 卷 第 1 號	工事畫報社
セメント界彙報	第 334 號 1 月 號	日本ポルトランドセメント 同 業 會
電車製作調査委員會報告		電 氣 協 會 關 東 支 部
電車音響防止調査委員會報告書		電 氣 協 會 關 東 支 部
Excavating	Vol. 30, No. 12.	三井物産機械部
G. S. News	第 10 卷 1 月 號	日 本 電 池 株 式 會 社
建築と防空	昭和 10 年 11 月	陸軍築城部本部
セメント工業	昭和 11 年 2 月 號	セメント工業社

會務彙報	昭和 11 年 1 月 第 50 號	日本土木建築請負業聯合會
技術日本	第 161 號 1 月 號	日本技術協會
帝國學士院紀事	第 11 卷 第 10 號	帝國學士院
利 根 駿 工	第 2 卷 第 1 號 第 12 卷 第 1 號	利根製作營業所 日本大学駿工會
工学彙報	第 10 卷 第 5 號	九州帝國 大学 工 学
工業現勢	第 5 卷 第 1 號	東京工業 大学 工業 調 査 部
日立評論	第 19 卷 第 1 號	日立評論社
稻工會雜誌	第 20 號 昭和 11 年 1 月	早 稻 田 高 等 工 学 校 稻 工 會
漁港の渠		關 口 四 郎
三菱電機	第 11 卷 第 9 號	三 菱 電 氣 株 式 會 社

購 入

Der Bauingenieur, Dez. 1935, 16 Jahrgang, Heft 51~55.	
Jan. 1936, 17 Jahrgang, Heft 1~2.	
Beton und Eisen, Dez. 1935, 34 Jahrgang, Heft 24~25.	
Jan. 1936, 35 Jahrgang, Heft 1.	
Die Bautechnik, Dez. 1935, 13 Jahrgang, Heft 54~56.	
Jan. 1936, 14 Jahrgang, Heft 1~2.	
Engineering News Record, Dec. 1935, Vol. 115 No. 23~26.	
Jan. 1936, Vol. 116, No. 1.	
Le Genie Civil, Jan. 1936, Tome CVIII, No. 1~2.	

# 會 報

第 22 卷 第 2 號 昭和 11 年 2 月

## 通常總會及同有志晚餐會記事

昭和 11 年 2 月 14 日午後 4 時半より帝國鐵道協會に於て本年度通常總會が開催せられた。本年の總會には會員多年の希望であつた土木學會定款及同規則の改正案が上程され、又今年から始めて行はれる様になつた土木賞牌の贈呈式が行はれるので、出席全員は例年より多く 89 名を數へ、中に昭和時代に社會に出た少壯技術者の顔も見え例年にない緊張した空氣をたゞよはせた。

4 時 40 分青山會長議長席に就き開會を宣し、之より議事に入る。先づ古川主事より昭和 10 年度の事業報告(會告欄参照)あり、次いで佐藤主計より昭和 10 年度の決算報告(會告欄参照)あり、共に異議なく承認となる。続いて古川主事より昭和 11 年度新役員の投票結果(會務欄参照)を報告し議長より之が承認を求め、新役員の起立を乞ふて全員に紹介をなす。之が終つて本日の重要議事である定款及規則改正に關する件が上程されたが、先づ古川主事より定款改正に必要な出席會員數は、本日の出席者數 55 名、委任狀 406 名計 461 名であつて現在會員總數 2703 名の 10 分の 1 以上に達してゐる旨の報告があつて、議長より之が改正案上程に至るまでの事情を説明し、更に草間副會長から改正案の要點に就き説明があつた。草間副會長の説明要旨は

### 1. 理事及常議員を増員したる事

從來理事は會長及び副會長の 3 名であり、常議員は 14 名であつたが、會員の増加に伴ひ之を理事 9 名、常議員 20 名に増加した。

### 2. 理事會と常議員會との權限を明かにした事

從來理事會としての規定が明かでなかつたが、改正案では理事會は會務の執行機關とし、常議員會は會務の決議機關として、その權限を明かにした。

### 3. 支部長が常議員會の決議に加はる事を得る事とした事

現在本會の支部は大阪に關西支部 1 箇所ある丈であるが、將來各地方の會員増加に伴ひ支部が設けられた場合、各支部と本會との連絡を図り本會の事業に盡力を願ふ意味で支部長が常議員會に出席し、決議に加はり得る事とした。

### 4. 特別員に會員と同等の權利を附與した事

從來特別員は會務の議定に加はる事が出來ない事になつてゐたが、年 100 円乃至 500 円以上の多額の會費を徴収する點から見ても其の代表者に會員と同等の權利を附與することが至當と認められたからである。

### 5. 會務分掌の爲總務、經理、編輯、調査、法制、東亞の 6 部を設けた事

從來は庶務、會計、編輯の 3 部にて會務を分掌し、必要に応じ委員會を組織して調査、研究等の事業を遂行して來たが、時勢の進運と會員の増大に伴つてその活動の範圍を擴げる爲、上記 6 部を設け各部の部長には理事が責任者として就任し、各部の擔任事業を円滑に然も敏速に執行して本會の目的達成に全力を盡す事とした。

尙今年の過度時機に於て増員常議員 6 名の選舉の件と其の結果報告の爲に附則を設けた事に就て説明され、代つて議長より本議案に就て出席會員の審議を乞ふ所があつた。之に對し丹羽勘彦君より規則第 21 條に就て質問があり、規則第 21 條は“法制部は土木行政土木教育其他法規制度の改正に關する事項を掌る”とあるが、法規制度の改正のみでなく法規制度を新たに整へる様な事も必要だとの希望意見に對し、草間副會長、名井定款改正委員長から説明があつたが、鈴木雅次君の動議で總會の席で修正案を決定する事となり、金森法制部次長の提案で之を“法制部は行政、教育、其他法規制度に關する事項を掌る”と云ふ事に一同異議なく賛成し、多難を思はせた本改正案も案外簡単に承認となり、之で通常總會の議事を全部終了した。続いて昭和 10 年度の土木學會誌に登載せられた論文中の優秀論文の著者として、役員會に於て決定せられた藤部屋福平君と池田篤三郎君に對し土木賞牌の贈呈式が行はれた。從來までは優秀論文は 1 編であつたが今年は 2 編が選ばれ光榮ある土木賞牌は青山會長の手から直接優秀論文の著者に贈られたのであつた。之が終つて青山會長より“社會の進歩發展と文化技術”と題する講演あり、半時間に亘つて土木技術が如何に東西古今の社會國家の進歩發展に貢獻して來たかを述べられ、我々は土木技術を以て我々の社會國家を隆盛に致さねばならぬと力強く結ばれた。斯くして 6 時通常總會を終了し有志會員は別室の晚餐會場に赴いた。

有志晚餐會は總會終了後直ちに開始された。新舊會

長、新選副會長を中央に、那波、名井、眞田、久保田各前會長も列席されて、出席者 64 名の會員は躍進土木學會を談じつゝ食事をとる。繼て今回留任の平井副會長立つて青山前會長を送り、氏の多大の御努力に對し會員を代表して感謝の言葉を述べ、次で草間副會長並に前常議員諸君の勞を謝し、井上新會長、辰馬新副會長並に新任常議員を迎へた喜びを述べられた。之に對し青山前會長は前役員一同を代表して答禮の挨拶をなし、改めて會員として新役員諸君を迎へた喜びを述べられた。次に井上新會長は新役員一同を代表して役員たるの光榮を得、今後益々學會發展の爲に努力致したき旨の抱負を述べられた。

暫くして平井副會長の指名に依りテーブルスピーチに移り、先づ眞田前會長明治以前日本土木史編纂委員會の副委員長として土木史編纂に關する經過と、出版延期の事情を説明され、鷹都屋福平君は光榮ある土木賞牌を授與せられたるに對し感謝し、先輩各位に拜顔の喜びを述べられた。池田篤三郎君は名譽ある土木賞牌を授與せられたる喜びを謝したる後、名古屋市に於

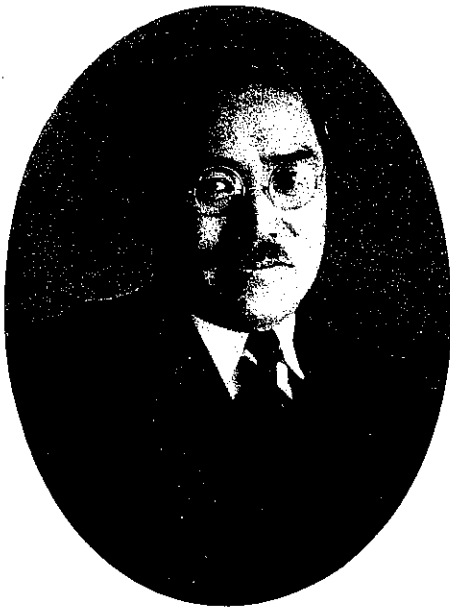
て明年 3 月開催される汎太平洋博覽會に關する説明をなし會員諸君の援助を希望した。代つて八田嘉明君立ち永らく内地を遠かつてみたが、今日土木學會が實は勿論精神的にも非常な活況を呈してゐる姿を見て誠に喜びしく感ずる旨を述べられ、次に今回常議員に當選した鶴田勝三君が新役員となつた喜びを述べられた。斯くて最後に名井前會長發聲の下に土木學會の萬歳を三唱し、杯を擧げ本會の將來を祝福しつゝ盛會裡に晩餐會を終了した。時に 8 時であつた。

思へば昨年の通常總會のこの席で投げかけられた土木學會に若さと生氣を與へよとの叫びが今日の總會に於て土木學會定款及規別の改正となつて現れ漸くその萌芽を見出す迄に至つたが、この 1 年間に於ける青山前會長以下役員諸君並に振興委員會委員の方々の御努力は實に涙ぐましきものがあつた。今新しく改正された土木學會定款及規則と、新しく戴いた新會長並に役員諸君に依つて躍進日本を背負つて立つ土木技術が而してその中心をなす土木學會が益々盛んに愈々力強くなつて行く事を祈つてやまない次第である。



井上秀二

會長  
工學士  
井上秀二



副會長  
工學博士  
平井喜久松

平井喜久松



副會長  
工學士  
辰馬錄藏

辰馬錄藏

# 就 任 の 辭

會 長 工 学 士 井 上 秀 二

不肖今回計らずも、會員各位の御推舉により、本會の會長の席を汚すことになりまし  
たることは、私の最も光榮とするところでありまして、唯感激の外はありませぬ。

20 餘年の光輝ある歴史と、尊重すべき傳統とを有する我土木學會の會長として、淺  
学菲才の私が、果して會員各位の御期待に背かざる様任務を全ふし得るや否やを考へる  
時、私は實に背汗淋漓を覺ゆるものであります。

技術を以て國家社會に奉仕すべき信念に燃え、且つ之を其の天職なりと覺悟する我土  
木技術者の團體たる土木學會は、既に 6 000 の會員を擁し、其の業績は年と共に顯著な  
る進歩發展を致し、我技術界に於ける重鎮且つ權威として、單に本邦のみならず、外國  
に至るまで、其の盛名を馳せて居る事は、瞭然たる事實でありまして、誠に御同慶に耐  
へざるところであります。此れ偏に、多年の間、會員及び役員各位の不斷の御努力と、  
歴代會長の聲望の然らしめたる結果でありまして、今後其の名聲を失墮せぬ様に力むる  
丈にても、なかなか容易の業ではないのであります。況や、本年の總會に於て、決定せ  
る本會定款並に規則の改正に伴ひ、本會の使命も更に重大性を加へ、行ふべき事業も一  
段と繁多に互るに至りたるを思へば、會長の責任も一層重大なるを感ぜざるを得ないの  
であります。此の重要な時期に會長となりたる私としては、唯々誠心誠意を以て、其  
の任務の遂行に當る覺悟を致すより外はないと、決心を致して居るものであります。願  
くば會員各位並に役員職員各位には、本會の爲、凡器たる私に向つて、甚大なる御援助  
と御鞭撻とを賜らん事を切望して已まざる次第であります。

# 會 告

## 昭和 10 年度事業報告並決算報告

### 昭和 10 年度事業報告

理事 青 山 士  
同 草 間 偉  
同 平 井 喜 久 松

昭和 10 年度事業概要次に報告す。

#### 1. 會 合

昭和 10 年 2 月 15 日午後 5 時より東京市麹町區丸ノ内 3 丁目 4 番地帝國鐵道協會に於て通常總會を開く。出席者 93 名にして會長久保田敬一君議長席に着き事業及決算報告を爲し終つて會長の講演ありたり。

前記以外本年度中に於ける會合は役員會 15 回、講演會 2 回、講演及映畫會 1 回、映畫會 1 回、座談會 1 回、祝賀會 1 回、編輯委員會 13 回、抄録打合會 9 回、用語調査委員會 2 回、振興委員會各部會 18 回、維新以前日本土木史編纂委員會 11 回、關西地方風水害調査委員會 2 回、コンクリート調査委員會 2 回、臺灣地方震災調査特別委員會 1 回、定款及規則改正委員會 4 回、第 3 回工學會大會土木部講演委員會 2 回なり。

#### 2. 役員改選及職員就任

定款第 22 條に依り會長久保田敬一君、副會長米元晋一君、常議員内海清温君、衣斐清香君、神原信一郎君、田中豐君、田邊良忠君、永田民也君退任に付定款第 21 條及規則第 15 條に依り會員の投票を以て改選を行ひ當選したる役員氏名次の如し。

會 長 青 山 士 君  
副 會 長 平 井 喜 久 松 君  
常 議 員 内 田 莊 一 君 小 野 基 樹 君 加 藤 貢 君 藤 井 眞 透 君  
堀 越 清 六 君 宮 長 平 作 君 山 田 隆 二 君

昭和 10 年 2 月 23 日編輯長田中豐君退任に付規則第 16 條に依り編輯長の推薦を行ひ左の通り就任せり。

編 輯 長 藤 井 眞 透 君

昭和 10 年 6 月 17 日會務分掌の爲東亞部を設け規則第十六條に依り部長及次長の推薦を行ひ次の通り就任せり。

部 長 平 井 喜 久 松 君  
次 長 内 田 莊 一 君 鈴 木 雅 次 君

昭和 10 年 10 月 23 日會務分掌の爲法制部及調査部を設け規則第 16 條に依り部長及次長の推薦を行ひ次の通り就任せり。

法制部部长 宮 長 平 作 君 次 長 金 森 誠 之 君  
調査部部长 野 口 寅 之 助 君 次 長 小 野 基 樹 君

#### 3. 委員會の設置並に委員の依囑及各種委員會の經過

昭和 10 年 2 月編輯委員青木楠男君、中原壽一郎君退任に付後任に岡田信次君、成瀬勝武君を依囑せり。

昭和 10 年 3 月第 3 回工学会大會準備委員會本會選出委員に古川淳三君、佐藤利恭君を依頼せり。

昭和 10 年 3 月日本標準型鋼委員會を解散せり。

昭和 10 年 3 月土木学会振興委員會を設置し第 2 部委員長に平山復二郎君、委員に阿曾沼均君、井上隆根君、内海清温君、河西定雄君、樫部 保君、金子源一郎君、榎木寛之君、久保彌太郎君、兒玉静雄君、田中 豊君、高橋三郎君、徳善義光君、沼田政矩君、三浦七郎君、宮本武之輔君、山口 昇君、山下輝夫君を、第 3 部委員長に野坂孝忠君、委員に伊藤剛君、小澤久太郎君、太田尾廣治君、岡崎三吉君、千秋邦夫君、立花次郎君、鶴岡鶴吉君、南保 賀君、原田忠次君、船越春雄君を依頼せり。

昭和 10 年 5 月臺灣地方震災調査委員會を設置し委員長に草間偉君、特別委員長に堀田 鼎君、委員に後藤宇太郎君、田中 豊君、高橋三郎君、藤井眞透君、三浦七郎君、山口昇君を、特別委員に阿部貞壽君、井手 薫君、磯田謙雄君、小野榮作君、久布白翁君、小山三郎君、八田與一君、濱田正彦君、松本虎太君を依頼せり。

昭和 10 年 6 月昭和 3 年 9 月設置の土木学会混凝土調査會を解散し新に土木学会コンクリート調査委員會を設置し委員長に大河戸宗治君、委員に内山 實君、田中 豊君、永田 年君、沼田政矩君、野坂孝忠君、平山復二郎君、宮本武之輔君、吉田徳次郎君を依頼せり。

昭和 10 年 6 月機械学会水量測定規格制定委員會本會選出委員に草間偉君を依頼せり。

昭和 10 年 6 月編輯委員堀越一三君退任に付後任に川口利雄君を依頼せり。

昭和 10 年 6 月日本動力協會參與員として本會々長を推薦せられ之を受諾せり。

昭和 10 年 7 月編輯委員星野茂樹君退任に付後任に瀧淵實烈君を依頼せり。

昭和 10 年 7 月第 3 回工学会大會本會選出講演委員に藤井眞透君を依頼せり。

昭和 10 年 10 月土木学会振興委員會第 3 部會委員に内山 實君、緒形重吉君、奥田秋夫君、佐藤慶次君、佐藤輝雄君、須之内文雄君、瀬戸政章君、瀧山 葵君、富塚颯一君、服部高景君、本間 仁君、松井達夫君を追加依頼せり。

昭和 10 年 11 月第 3 回工学会大會土木部講演會を設置し委員長に大河戸宗治君、委員に青木楠男君、赤木正雄君、井上隆根君、岩澤忠恭君、榎木寛之君、河口協介君、後藤宇太郎君、鈴木雅次君、關 信雄君、田中 豊君、高橋三郎君、萩原俊一君、平山復二郎君、三浦七郎君、宮本武之輔君、山口昇君を依頼せり。

昭和 10 年 11 月土木学会振興委員會第 1 部會委員長に中山秀三郎君、委員に野村龍太郎君、原田貞介君、古川阪次郎君、岡野 昇君、田邊朗郎君、中川吉造君、那波光雄君、名井九介君、眞田秀吉君、久保田敬一君、丹羽鋤彦君、井上秀二君、八田嘉明君、眞島健三郎君、前川實一君、大河戸宗治君、米元晋一君を依頼せり。

昭和 10 年 11 月定款及規則改正委員會を設置し委員長に名井九介君、委員に池邊稻生君、井上秀二君、草間偉君、佐藤利恭君、野坂孝忠君、平山復二郎君、古川淳三君、宮本武之輔君を依頼せり。

其他用語調査會、世界動力會議大堰堤國際委員會日本國內委員會、土木建築士法案調査委員會、維新以前日本土木史編纂委員會、關西地方風水害調査委員會等は引続き調査中なり。

#### 4. 會誌其他の發行

昭和 10 年度中に於て土木学会誌第 31 卷第 1 號より第 12 號まで並に明治以前日本土木史内容見本及會員名簿を發行せり。

#### 5. 登記事項

昭和 10 年 2 月 15 日の通常總會に於ける理事の改選及資産の總額を金 134,211.33 円と變更の件は同年 2 月

26 日其登記を了せり。

#### 6. 建議事項

昭和 10 年 7 月 31 日旅順工科大学内に土木工学科を速かに設置せられむことを内閣總理大臣並に拓務、文部、大藏の各大臣及内閣審議會々長、對滿事務局總裁、關東局總長に建議し併て旅順工科大学長及同大學商議員に對し考慮方を依頼せり。

#### 7. 土木賞牌基金及其他の寄附

昭和 10 年 2 月 8 日古市六三君より故男爵古市公威君記念土木賞牌贈呈基金として金 500 円寄附せられたり。

昭和 10 年 7 月 30 日故來島良亮君記念碑建設發起人總代香坂昌康君より故來島良亮君記念土木賞牌贈呈基金として金 500 円寄附せられたり。

昭和 10 年 5 月及 11 月の兩度に於て日本學術振興會より明治以前日本土木史編纂補助として金 2000 円交附せられたり。

昭和 10 年 12 月 28 日株式会社間組社長小谷 清君より東亞部事業資金として金 1000 円寄附せられたり。

#### 8. 土木賞牌贈呈

土木學會誌第 20 卷第 10 號に登載せる會員工学博士堀越一三君著「軌條の挫屈に就て」と題する論文に對し昭和 9 年度第 1 土木賞牌を贈呈せり。

#### 9. 見學視察旅行

昭和 10 年 4 月 6 日第 5 回見學會として大日本麥酒川口工場並に大宮公園及九號國道の見學を行ひ會員 38 名の參加ありたり。

昭和 10 年 5 月 5 日第 22 回視察旅行として香取、鹿島神社參拜並に霞ヶ浦航空隊、横利根閘門、水郷大橋工事及伊能忠敬舊家等の視察を行ひ會員 52 名の參加ありたり。

昭和 10 年 10 月 27、28 日の兩日第 23 回視察旅行として第 1 號國道、五大橋並に名古屋港、名古屋下水處理場、名古屋城、名古屋驛高架線工事等の視察を行ひ會員 120 名の參加ありたり。

#### 10. 關西支部事業の概要

昭和 10 年 5 月 20 日會員平瀬三雄君より亡父追善のため金 150 円を支部事業資金として寄附せられたり。

昭和 10 年 5 月 20 日近藤博夫君に對し關西支部幹事長として功績顯著なるに依り胸像を贈呈し感謝の意を表せり。

昭和 10 年度中關西支部に於ける諸會合は役員會 7 回、大會 1 回、講演會 1 回、晚餐會及座談會 5 回、土木學研究會 1 回、見學會 2 回なり。

#### 11. 會員數

昭和 10 年度中の入會者は會員 640 名（内准員より轉格したる者 401 名）准員 942 名（内學生員より轉格したる者 173 名）學生員 381 名、合計 1966 名にして退會者は會員 25 名、准員 42 名、學生員 2 名、特別員 1 名、合計 70 名、死亡者は會員 33 名、准員 12 名、學生員 2 名、賛助員 1 名、合計 48 名なり。

而して昭和 10 年 12 月末日に於ける現在數は會員 2703 名、准員 2439 名、學生員 602 名、特別員 2 名、賛助員 20 名、合計 5766 名なり。



昭和 10 年度決算報告 (自昭和 10 年 1 月 1 日  
至 同 年 12 月 31 日)

理事 青 山 士  
同 草 間 偉  
同 平 井 喜 久 松

1. 経常部

収入の部		支出の部	
會 費	46 716.11	事 務 費	25 660.21
利子及雜收入	10 331.15	會 誌 費	34 670.42
會費一時納付金	130.00	工 学 會 費	200.00
土木史編纂費組入金	2 000.00	支 部 交 付 金	1 500.00
事業資金より組入金	6 127.43	事 業 費	110.37
前年度繰越金	388.44	コンクリート示方書費	364.78
合 計	65 693.13	臨 時 費	1 245.78
		土 木 史 編 纂 費	1 811.57
		基 金 へ 組 入 金	130.00
		合 計	65 693.13

2. 20 週年記念事業残務整理費

収入の部		支出の部	
20 週年記念廣告料収入	5 530.00	20 週年記念事業残務整理費	5 064.70
合 計	5 530.00	事業資金へ繰入金	465.30
		合 計	5 530.00

3. 土木史刊行費 (昭和 10 年度分決算)

収入の部		支出の部	
土木史刊行費負擔金収入	7 056.78	豫 約 募 集 費	812.59
日本学術振興會補助金	2 000.00	報 酬 其 他	545.00
合 計	9 056.78	翌年度へ繰越金	7 699.19
		合 計	9 056.78

4. 假 拂 金

収入の部		支出の部	
事業資金より組入金	31.35	秋季視察旅行會費立替金	31.35

5. 基 金

収入の量		支出の部	
前年度繰越金	116 193.83	經 費 へ 組 入 金	3 167.08
基 金 收 入	1 130.00	翌年度へ繰越金	118 969.26
利 子 收 入	4 812.51	合 計	122 136.34
合 計	122 136.34		

## 6. 事業資金

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	8 390.04	経費へ組入金	8 158.78
資金収入	1 896.01	翌年度へ繰越金	2 359.46
利子収入	232.19	合計	10 518.24
合計	10 518.24		

## 7. 貸借対照表(昭和10年12月31日現在)

## 貸方の部(負債)

基金	118 969.26
----	------------

## 内 譯

故白石直治博士記念基金	10 625.89
故山崎鉦次郎博士記念基金	16 939.76
原田貞介博士記念基金	1 942.88
故廣井勇博士土木賞牌基金	3 471.45
故廣井勇博士還暦記念基金	540.00
小川梅三郎博士還暦記念基金	7 581.08
故富田保一郎博士記念基金	1 227.31
故石黒五十二博士記念基金	611.30
故近藤虎五郎博士記念基金	7 503.96
故中島説治博士記念基金	4 948.70
	3 560.73

故阪田貞明君記念基金	1 273.16
故岡崎芳樹博士記念基金	2 037.77
故太田圓三君記念基金	2 878.40
故坂本雅雄君記念基金	522.51
故川上浩二郎博士記念基金	1 045.60
故古市公威博士土木賞牌基金	507.45
故來島良亮君土木賞牌基金	503.50
積立基金	20 248.16
關西支部維持基金	23 000.00
事業資金	2 359.46
翌年度へ繰越金	16 899.90
合計	138 228.62

## 借方の部(資産)

有價證券	88 924.07
信託預金	22 000.00
郵便貯金	3 826.17
振替貯金	7 234.96
特別當座預金	701.65

當座預金	6 025.24
図書及備品	6 062.33
會費未収入金	3 107.03
假拂金	31.35
現金	315.72
合計	138 228.62

## 8. 財産目録

貸借対照表資産之部と同一に付省略す。

# 會 告

## 昭和 11 年度土木學會役員氏名

昭和 11 年 2 月 14 日開催せる土木學會總會に於て昭和 11 年度役員下の通り決定致しました。

### 土 木 学 會

會 長	工 学 士	井 上 秀 二君	(新 任)
副 會 長	工 学 博 士	平 井 喜 久 松君	(留 任)
同	工 学 士	辰 馬 謙 藏君	(新 任)
常 議 員	工 学 士	内 田 莊 一君	(留 任)
同	工 学 士	小 野 基 樹君	(留 任)
同	工 学 士	加 藤 貢君	(留 任)
同	工 学 士 林 学 士	蒲 孚君	(新 任)
同	工 学 士	河 口 協 介君	(新 任)
同	工 学 士	菊 池 英 彦君	(新 任)
同	工 学 士	後 藤 宇 太 郎君	(新 任)
同	B. Ph.	鶴 田 勝 三君	(新 任)
同	工 学 士	萩 原 俊 一君	(新 任)
同	工 学 士	平 山 復 二 郎君	(新 任)
同	工 学 博 士	藤 井 眞 透君	(留 任)
同	工 学 士	堀 越 清 六君	(留 任)
同	工 学 士	宮 長 平 作君	(留 任)
同	工 学 士	山 田 隆 二君	(留 任)

# 會 告

## 図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しましたが、現在所有の図書は未だ充分とは云へませんから、會員の著書其他図書雑誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

## 図書室及び娛樂室御利用に就て

本會所有の図書及び雑誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自 9 月 1 日至 12 月 31 日  
自 1 月 1 日至 7 月 20 日  
自 午前 9 時 至 午後 8 時、  
自 7 月 21 日 至 8 月 31 日  
及 土 曜 日 自 午前 9 時 至 午後 4 時、  
但し 日 曜 日 及 び 祭 日 休。

## 徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出で下さい。

1. 徽章の寸法 径 14 mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 13 錢を要す)



(印 物 大)

## 會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

## 會費納付に付き注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1 月~6 月)	第 2 期分 (7 月~12 月)
	會 員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたし。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

## 會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 25 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。發行後數ヶ月経過しての照會は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

# 既刊會誌殘部内譯

(\* は残部有るものを示す)

巻	號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
5		*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6		—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
7		—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8		*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9		*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10		—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11		—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12		—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
13		—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
14		*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17		*	*	*	*	*	*	*	*	—	—	*	*	1.00
18		—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
19		*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
20		*	*	*	*	—	—	*	*	—	—	—	—	1.00
21		—	—	*	*	*	—	—	*	*	*	*	*	1.00
22		*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
第 20 卷第 12 號 (創立 20 周年記念號)														1.50
第 21 卷第 7 號 (會誌索引付)														1.30
東京市内外交通に関する調査書														3.00
廣害調査報告書(1,2,3)														18.00
応用力学聯合大會講演集														1.00
鉄筋コンクリート標準示方書														0.50
同上 解説														1.00
土木工学論文抄録														3.50
土木學會誌索引(第 1 卷第 1 號—第 20 卷第 12 號)														0.50

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

## 廣 告 料

普通廣告	1 回 1 頁	35 円	1 回半頁	20 円
指定廣告	{裏表紙 3 面對 向及廣告初頁}		1 回 1 頁	40 円
			1 回 1 頁	70 円
		裏表紙 3 面 色アート	1 回 1 頁	60 円

- 指定廣告は凡て 1 箇年継続申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす
- 同一廣告の連続掲載申込に對しては 1 年 4 回以上 1 割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

# DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

---

VOL. XXII, NO. 2, FEBRUARY, 1936.

---

## CONTENTS.

	Page
<b>Proceedings of the Society,</b> .....	7
<b>Presidential Address.</b>	
The Civil Engineering in Developing Social Civilization.	
<i>By Akira Aoyama, C.E., President.</i> .....	97
<b>Papers.</b>	
On the Proper Adjustment for the Spaces of Tracks and the Sizes of Tunnel in the Underground Rapid Transit Lines to conform their own Distinctive Alignment (Part III).	
<i>By Kunie Abe, C.E., Member.</i> .....	101
On the Cleaning of Ballast of Railway Track.	
<i>By Takane Inoue, Dr. Eng., Member.</i> .....	143
On the Construction Work of the Sekifu Bridge.	
<i>By Takasi Tunoda, Assoc. Member.</i> .....	197
<b>Discussions.</b> .....	213
<b>Notes on Matters of Interest.</b> .....	221
<b>Abstracts of Selected Articles.</b> .....	243
<b>Patent News.</b> .....	263

---

### OFFICE

No. 6, 3-TYÔME, MARUNOUTI, KÔZIMATI-KU, TÔKYÔ, JAPAN.